



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2013年9月 Vol. 5

Kinky Shot! - 今月のキンシャサ -



←体の一部が入ればOK!

さあ、貴方ならどっち...?

光り輝く
新規バス→



タクシーバスvs. 大型新規バス どちらが快適?

我々は乗ることができないが、キンシャサにも一応公共交通機関が存在する。基本は青と黄色のタクシーバス。定員は、車体に体の一部が入ればOK。椅子は木の板、初乗り500コンゴフラン(50円程度)。運転はとにかく荒く、車線、標識構わず行きたい方向に向かう。修理場所は道の真ん中。おかげで今日も交通渋滞。

最近、その横を颯爽と走る3本ラインの大型バスが! ゆったり座れる座席。屋根付きバス停完備。こちらも初乗り500フラン。しかし、タクシーバスは変わらず満員御礼状態。何故、快適な新しいバスに乗らない? 「タクシーバスは、どこでも乗れて、どこでも降りられるから。」名前の通り「タクシー」バス、乗り降り自由が魅力のようだ。

グラン・マルシェを制する者はキンシャサを制す?!

Kin Life! - キンシャサで生きる -

魅惑のグラン・マルシェ。ここで買えないものはないという。キンシャサの心臓部に位置し、生鮮食品、生活雑貨はもちろん、それは売れ物なの? というものまで何でも売っている。どういう仕組みかわからないが、とにかく安い。場合によっては外国人向けスーパーの10分の1程度のもので(当然ながら質は落ちるが、それでも問題ない時だってある)。安いだけでなく、必要なものをそれ「だけ」買える。シャワーヘッドの一部品とか、ちょっと特殊な電球とか、絶対コンゴ民で生産されていないにも関わらず、必ず買い替えられることには驚きを隠せない。どうなっているんだ、グラン・マルシェ。どこでもドアでもあって、生産国までひとつ飛びなのか? ?

更に、グラン・マルシェにはコンゴ人ですら治安を気にして立ち入らない地区があるらしい。治安以外にも「一度入ったら出られなくなるから」あまり行きたくない、とか。ん? 出られなくなる? 富士の樹海さながらに? ? 気になって夜も眠れないが、当然ながら、日本人は基本的に立ち入り禁止。泥棒、スリが多く、場合によっては後をつけられる可能性も否定されないからだ。

それでも、少しずつ改善している治安と経済状況に期待せずにはいられない。華やかな発展を遂げつつあるキンシャサの中心部にはいつも、物があふれ、活気あふれ、笑顔があふれるグラン・マルシェがあるはずだ。



写真: 久野真一

スーパーより安くて新鮮な野菜が山盛り!

Eat Kin! - キンシャサで食べる -

魅せてやまないコンゴ飯



ある日の露店食堂にて。
(中央にあるのが「シュクワン」
(下)及び「フフ」(上))

「キンシャサの軌跡」は洒落たレストランしか紹介していない。一般の「コンゴ飯」についてもっと教えてほしい!!。そんな要望にお応えして、コンゴ飯の魅力を筆者の独断と偏見でご紹介! 是非こちらの記事と併せてお読みください (<http://www.jica.go.jp/publication/j-world/1303/ku57pq000014rr36-att/08.pdf>)。

まず押さえるべき定番は、「ポンドゥ+ (リンガラ語で "and") ・シュクワン (or フフ)」。いずれもキャッサバを使った料理だ。「フフ」「シュクワン」はキャッサバの粉から作る言わば主食、対して「ポンドゥ」はキャッサバの葉を刻んで煮込んだ副菜。これを食せば、あなたは立派なコンゴ民通(つう)! ちなみに、スーパーで「ポンドゥ」味の固形スープの素(Maggi)が購入出来ます(笑)。

そして、おすすめは魚(肉もおいしいですが)! コンゴ川・タンガニーカ湖を始めとする豊かな水源のお蔭で淡水魚を中心に魚の種類は豊富。「揚げ」と「煮込み」の2つ調理法をベースに、材料や味付けを変え、店によっては5、6種類の料理に仕立て上げる。コンゴ民・ママの料理の剛腕には感服・脱帽。

「事件は現場で起きてるんだ！」…とどこかで聞いたセリフだ。しかも相手は警察官。おいしく食べていたコンゴ料理ランチの手を止める。「工事に来たのに金も資材もない！どうなって×▽■○☆？！」答えもせず一旦切る。関係者に電話する。暫くして送金手続きに入ったとの連絡が。「明日着金するから、今日は資機材なしでできることを。それと、怒鳴らなくても聞かえるから。」翌日また電話が鳴る。「お前に怒鳴った甲斐があった。」満面の笑みが目に浮かぶ。そうじゃないんだけどなあ、と思いつつ、それは良かったと言って電話を切る…小説風にと書くと、担当者の毎日はこんな感じだ。

JICAは国連ミッション(MONUSCO)の警察部門(UNPOL)と国連開発計画(UNDP)と連携し、国家警察民主化研修(以降、警察研修)を実施している。関係者が多い分、上記のような情報の行き違い、手続きの遅れなど、日常茶飯事だ。それでも4者が揃うことで初めて可能となっているこの研修が、コンゴ民国家警察の未来を築く重要な役割を担っていると信じ、日々精進している。これから4回に分け2012年度の警察研修を担当目線でご紹介したい。警察と愉快な仲間たちの七転八倒、いや、七転び八起き、乞うご期待♪

…所長の電話が鳴る。警察長官からだ。「…わかりました。今行きます。」偉い人に呼び出されると、ろくなことがない(前連載第1話参照)。心当たりを考えている間に、秒速の所長はもう車に。うわわ、いつの間に?!考える間もなく、辛うじて案件ファイルとペンをつかんで事務所を飛び出す。(続く)

UNPOLによる教官研修。研修を受けたコンゴ民国家警察の教官らは、6か月の研修期間、教育実習しながらに、自分たちで授業を行う。



写真:久野真一

「国立職業訓練校指導員能力強化プロジェクト」終了時評価

コン月のイベント



↑日本人専門家による自動車整備指導員研修



↑起業した卒業生(右端)。よっ社長!頑張れ

2011年1月に始まった「国立職業訓練校指導員能力強化プロジェクト」の終了時評価調査が実施された。本プロジェクトは国立職業訓練校(通称「INPP」)で働く指導員の基礎・専門・指導技術を高めることを目的に実施されてきた。今回の終了時評価では、プロジェクトによる研修を通じて指導員の能力が向上したことが確認され、さらにはINPPと民間企業の関係が改善するというインパクトも確認できた。一方で、職業訓練の質の向上や卒業生の就職状況の改善に向けては未だ多くの課題が残っていることを関係者で共有した。

…とお硬い話はここまでにして(笑)、以下このINPPに対する協力の魅力を語りたい。まずはINPPが「頼まれにみる協力相手」ということ! INPPを訪れる日本人はほぼ間違いなくINPPの持つ飽くなき向上心や日本に対する敬愛の念に魅了される。約束したことはきっちり果たす、そんな相手はそうそういない。(←本当にいいよ~by 警察研修担当の遠吠え)

次にINPPに対する協力が「夢のある協力」だということ☆そもそも職業訓練は、個人の自己実現と国家の開発の双方の「夢」の実現に貢献する重要な活動なのである。加えて、INPPと我々は、INPPがコンゴ民のみならず、中部アフリカ地域の中核職業訓練機関になるという「夢」を共有して日々邁進している。

今後益々発展していくINPPと日本の協力から目が離せない!

愛すべき? コンゴ人



所属: 国家警察
氏名: ヒセンギマナ長官

コンゴ民国家警察のトップ。ものすごく偉いのに全く偉ぶらず、人の話を良く聞き、要点を鋭く突く逸材。高い判断力と決断力も併せ持つ。穏やかで落ち着いた口調は説得力大。怒鳴られるよりよっぽど怖い。JICAの警察研修への関心が高く、自ら現場に赴き、案件を監理する様子には頭が下がる。長官なくして警察研修なし。国にとってもJICAにとっても必要不可欠な人材である。

編集後記

ディープなキンシャサ、お楽しみいただけただしょうか?辛いことも、腹立つことも多々ありますが、日々、人の笑顔とおいしいご飯に癒されて、事務所一同、奮闘しております☆なお、現在JICA広報室FBでも「ポジティブなキンシャサ」発信大サービス中ですので、是非併せてご覧くださいませ♪
さあ~て、次号の「キンシャサの軌跡」は…?満を持して川向こうの「コンゴ共和国」の登場です!近くて遠いブラザビル(首都)、中部アフリカの「ルート」ポワントノール、その隠れた魅力に迫ります。お楽しみに♪♪